

平成 30 年度 関東森林管理局保護林管理委員会
小笠原諸島森林生態系保護地域部会
第 1 回 小笠原部会 議事概要

日時：平成 30 年 11 月 1 日（木）15:00～17:00

場所：父島会場 地域福祉センター2 階大会議室

母島会場 母島村民会館 2 階会議室

1. 平成 30 年度小笠原諸島森林生態系保護地域に関わる主な事業予定について

- ・特段の意見なし。

2. 平成 30 年度林野庁・東京都・環境省・小笠原村における主な事業内容について

① 林野庁事業

- ・オガサワラカワラヒワの目撃数が激減しており危機的状況にある。特に母島列島の属島におけるクマネズミ対策が急務と考えられるため、関係行政機関や科学委員会とともに具体的なアクションを起こしてもらいたい。
- ・外来種の駆除や在来植生の導入は、樹種や生育状況、場所等の立地条件の違いにより、手法を変える必要があるのではないか。
- ・媒島は無立木地であることから植生回復が難しいので、人工的に先駆的な植生の場を作るなど自然遷移を引き易くする方法もあるのではないか。
- ・林野庁の補助事業では、これまでの修復事業を総括し、さらに現地で植栽や播種等の実験を行いながら汎用性のあるガイドラインを作成して、世界遺産管理に役立てるというプログラムであることから期待したい。
- ・オガサワラグワを守るため、小笠原諸島全体でオガサワラグワをどう守るのか検討する時期にきていると思う。
- ・島ごとの特性に応じた管理目標は保全管理計画で作られているが、それと個々の対策の繋がりが見えにくい。対策や駆除だけでなく、生態系の関連性を踏まえてどのような森林を作るのかを明確にする必要がある。
- ・オガサワラシジミが危機的状況にある。その食草であるオオバシマムラサキが多く生育している地域ではアカギに被陰されている個体が多い。オガサワラシジミにとって重要なオオバシマムラサキ個体群をリストアップしているので、この情報を活用し修復事業の中でもオガサワラシジミの保全を実施してもらいたい。

② 環境省事業・東京都事業・小笠原村事業

- ・兄島 C ラインでの土砂流出の原因として、工事開始前に生育していた植生を取り除いたことに起因する可能性があるため、中段伐りするなどの方法を試してみてもどうか。
- ・弟島では陸産貝類はノブタに食べられてしまって生息していないというのが定説だったが、以前、タコノキの根の中に生息しているのを確認した。今は増えているかもしれない。

- ・環境省の希少植物保護増殖事業は今年 3 年が終了し、結果がでている。どの程度絶滅しそうか情報共有として本部会で報告してもらいたい。

3. 平成 30 年度ボランティア森林環境教育等の実施に関わる連携・協力について

- ・特段の意見なし。

4. 平成 30 年度民間団体との協定締結による森作りについて

- ・東島ではシロツブが旺盛に繁茂しており、絡まって死ぬ海鳥がいる。南島・孫島・聳島等ネズミを駆除した島ではシロツブが確実に生育しており、植物も被覆されると枯死することから、森林生態系管理上注意が必要である。

5. 小笠原諸島森林生態系保護地域 保全管理計画改定について

- ・指定ルートは世界遺産の森である森林生態系保護地域のコア部を島民も見ることができ、設定された価値は非常に高いが、その維持管理について島民が何か話せる場所を検討してもらいたい。

6. その他

- ・小笠原部会に密接にかかわってくる地域連絡会議、現地連絡会や修復事業の会議の議事概要を資料に掲載してもらいたい。